

18歳意識調査 「第50回 -インターネット利用と侮辱罪-」 報告書

日本財団 2022年11月1日

目次

調査概要	3
結果概要	4
1. 刑法改正に対する考え	
刑法改正に関する認知	6
侮辱罪の厳罰化に対する考え	9
2. 誹謗中傷に関する経験・対策	
誹謗中傷に関する経験	13
インターネット上での投稿や発言に対する考え	17
誹謗中傷対策	20
3. 誹謗中傷に対するペナルティへの考え	
誹謗中傷に対するペナルティへの考え	27
侮辱罪厳罰化による今後の変化	30
示唆	40

調査概要「18歳意識調査」 -インターネット利用と侮辱罪-

調査対象

全国の17歳～19歳男女

回答数

1,000

※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男性	168	170	176	514
女性	159	160	167	486
計	327	330	343	1,000

実施期間

2022年9月22日（木）～9月27日（火）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

注記3：調査の冒頭で、侮辱行為や誹謗中傷についての回答者の考えについて質問することを伝え、調査に協力いただける方のみ回答いただいた。

第50回18歳意識調査「インターネット利用と侮辱罪」 結果概要

- | | | |
|---|-----------------------|---|
| 1 | 刑法改正に対する
考え | <ul style="list-style-type: none">① 約5割が「改正刑法が成立したことを知らなかった」と回答。② 侮辱罪の厳罰化については、男女とも、約8割が「賛成」と回答。賛成理由としては、「誹謗中傷により傷つく人や命を絶つ人が少なくなる」がトップ。③ 一方、約5割は厳罰化しても誹謗中傷が「増える」もしくは「変わらない」と回答。 |
| 2 | 誹謗中傷に関する
経験 | <ul style="list-style-type: none">① 約7割が「他人に対する誹謗中傷を目にしたことがある」と回答。「自分に対する誹謗中傷を目にしたことがある」と回答した人は約2割。② 男女とも、誹謗中傷をシェア・リツイートした経験があると回答した人よりも、誹謗中傷を書き込んだ・発信した経験があると回答した人が多い傾向。 |
| 3 | 誹謗中傷対策 | <ul style="list-style-type: none">① 8割以上がネットリテラシーを「学んだことがある」と回答しており、そのうちの6割以上は「役立っている」と感じている。② 不適切投稿の削除依頼や違反申告・報告などの各種誹謗中傷対策について、半数程度は知っていたものの、実際に実行したのはそのうちの2割程度。 |
| 4 | 誹謗中傷に対する
ペナルティへの考え | <ul style="list-style-type: none">① ペナルティを与えなくてもよいものとして、「口コミサイトでの感想」、「中傷へのいいねによる反応」、「中傷のリツイート」の順に多い。② ペナルティが必要なものとしては、「デマの発信」、「虚偽の投稿」、「なりすまし投稿」の順に多い。 |
| 5 | 属性による特徴 | <ul style="list-style-type: none">① 女性の方が男性よりも刑法改正に対して反対と回答した人の割合が低く、侮辱罪厳罰化によって誹謗中傷が減ると考える人の割合も高い傾向。② 男性の方が女性よりも各種誹謗中傷対策について知っている人の割合が高い傾向。 |

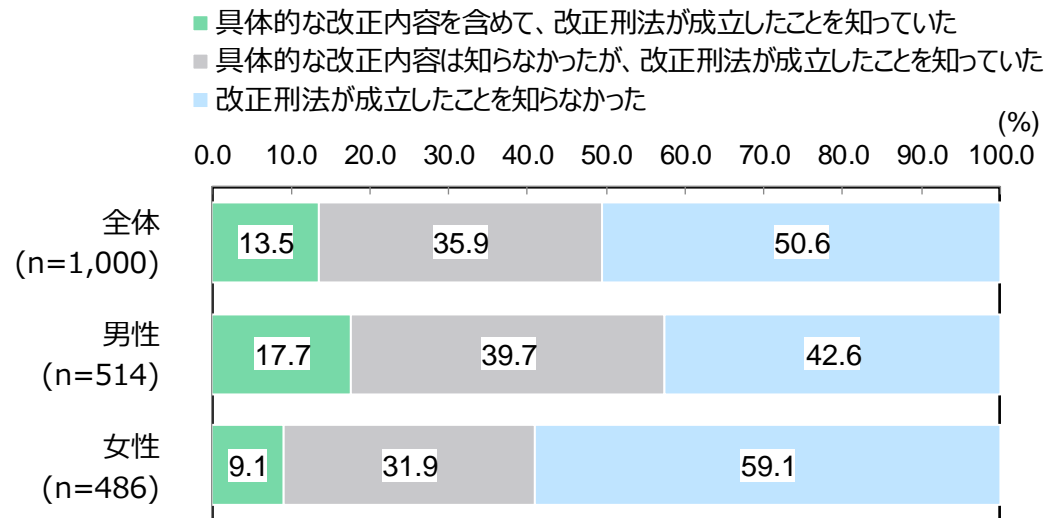
詳細

1. 刑法改正に対する考え
2. 誹謗中傷に関する経験・対策
3. 誹謗中傷に対するペナルティへの考え

刑法改正に関する認知

全体では、約5割が「改正刑法が成立したことを知らなかった」と回答。「具体的な改正内容を含めて、改正刑法が成立したことを知っていた」と回答した人は1割強に留まる。性別では、女性が男性よりも、「改正刑法が成立したことを知らなかった」と回答した人の割合が高い傾向。

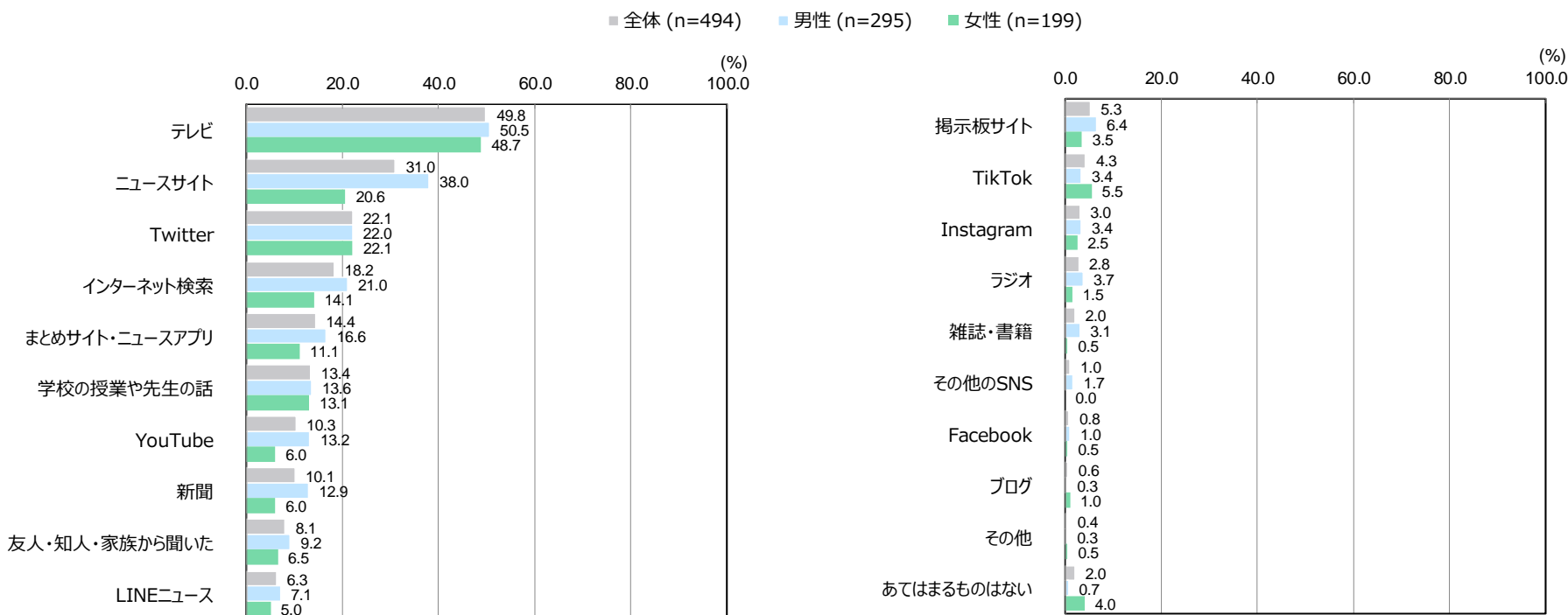
質問1：2022年6月13日に改正刑法が成立したことを知っていますか。（選択式（単一））



刑法改正に関する認知

全体では、改正刑法が成立したことを知った情報手段としては、「テレビ」と回答している人がもっとも多く、その次に、「ニュースサイト」と回答した人が多い。男性は、「テレビ」、「ニュースサイト」、「Twitter」の順に回答した人が多い。女性は、「テレビ」、「Twitter」、「ニュースサイト」の順に回答した人が多い。

質問2：改正刑法が成立したことを、どの情報手段を通じて知りましたか。次の中からいくつでも選んでください。（選択式（複数））



提示文章

インターネット上の誹謗中傷（※1）が社会問題となっています。今回の刑法改正では、こうした誹謗中傷を抑止するとともに、悪質な侮辱行為に対処するために、侮辱罪の厳罰化（※2）が盛り込まれました。また、刑事責任が問えなくなる公訴時効期間も1年から3年に延びたことで、匿名投稿のために発信者の特定に時間がかかったとしても、立件までの余裕が生まれることとなりました。

※1 他人の人格、性格、容姿などを否定する発言、言葉による嫌がらせや悪口などのこと。

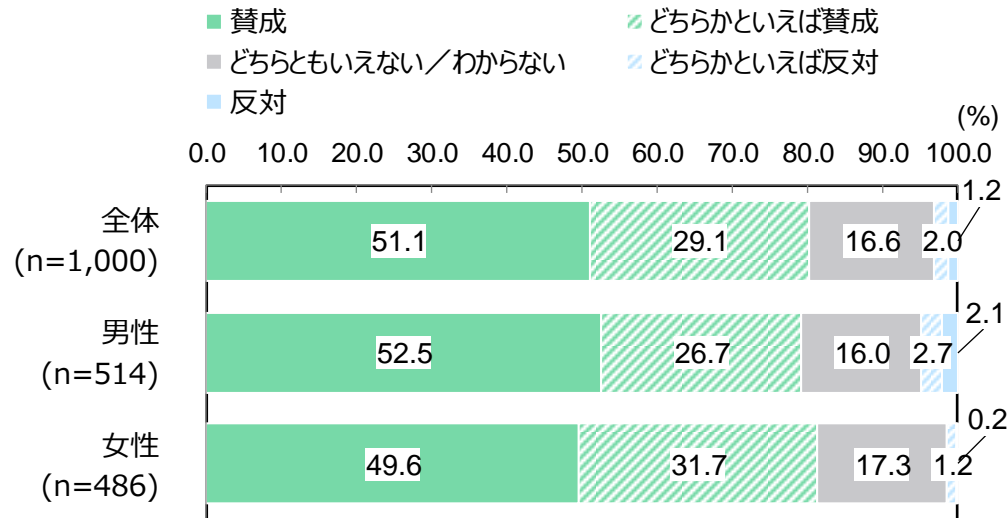
※2 具体的には、「30日未満の拘留または1万円未満の科料」までであった罰則が、「1年以下の懲役もしくは禁錮、30万円以下の罰金、30日未満の拘留または1万円未満の科料」となりました（罰金は1万円以上、科料は千円以上1万円未満）。

ここからは、誹謗中傷や侮辱罪に関するあなたの考えについておうかがいします。

侮辱罪の厳罰化に対する考え

侮辱罪の厳罰化については、男女とも、約8割が「賛成」(※1)と回答している。「反対」(※2)と回答した人は、全体では約3%。性別では男性が約5%、女性が約1%。
※1「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計。※2「反対」と「どちらかといえば反対」の合計。

質問3：侮辱罪が厳罰化されたことについて、あなたはどのように考えますか。(選択式(単一))



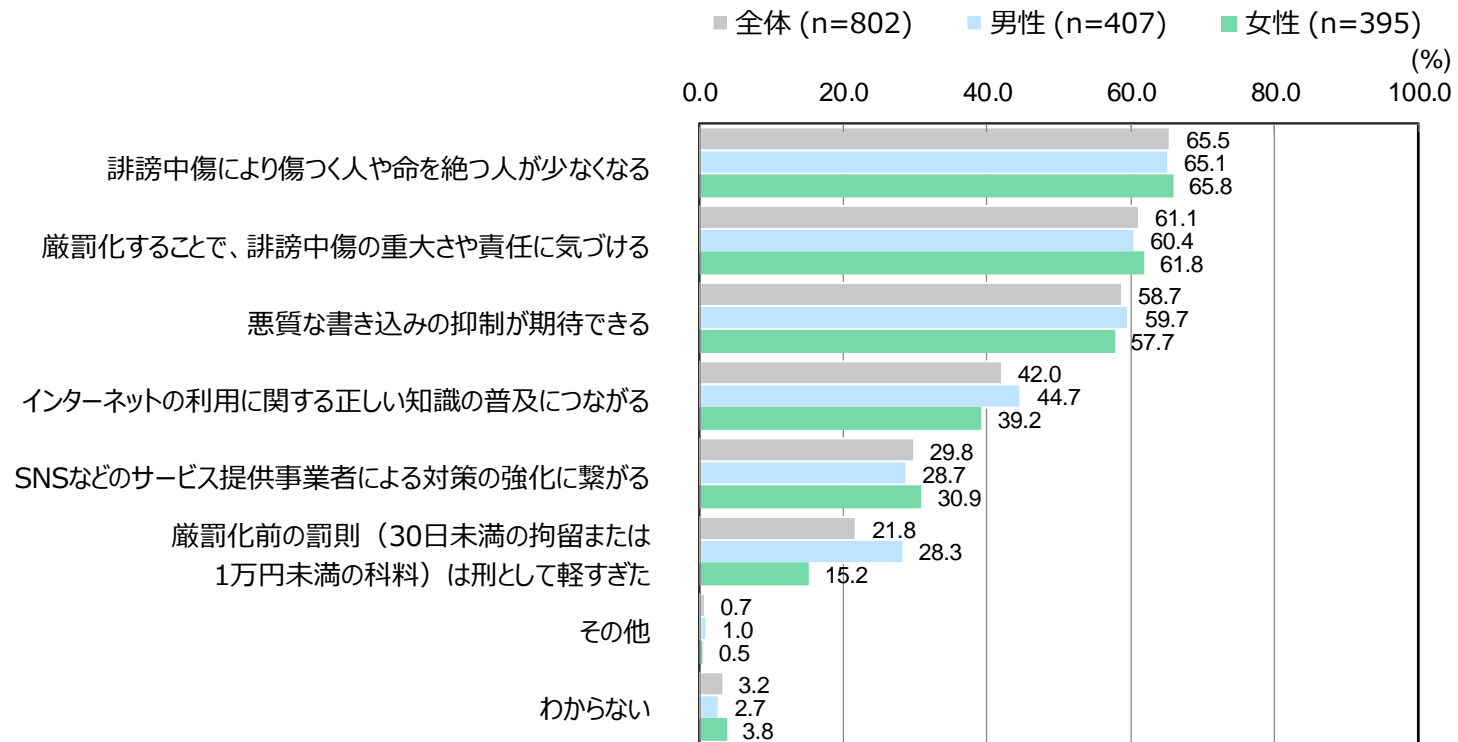
侮辱罪の厳罰化に対する考え

賛成理由

侮辱罪の厳罰化への賛成理由（※）としては、男女とも、「誹謗中傷により傷つく人や命を絶つ人が少なくなる」、「厳罰化することで、誹謗中傷の重大さや責任に気づける」、「悪質な書き込みの抑制が期待できる」の順に挙げている。

※「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」と回答した理由

質問4：侮辱罪の厳罰化に「賛成」もしくは「どちらかといえば賛成」とお答えいただいた理由について、次の中からいくつでも選んでください。（選択式（複数））



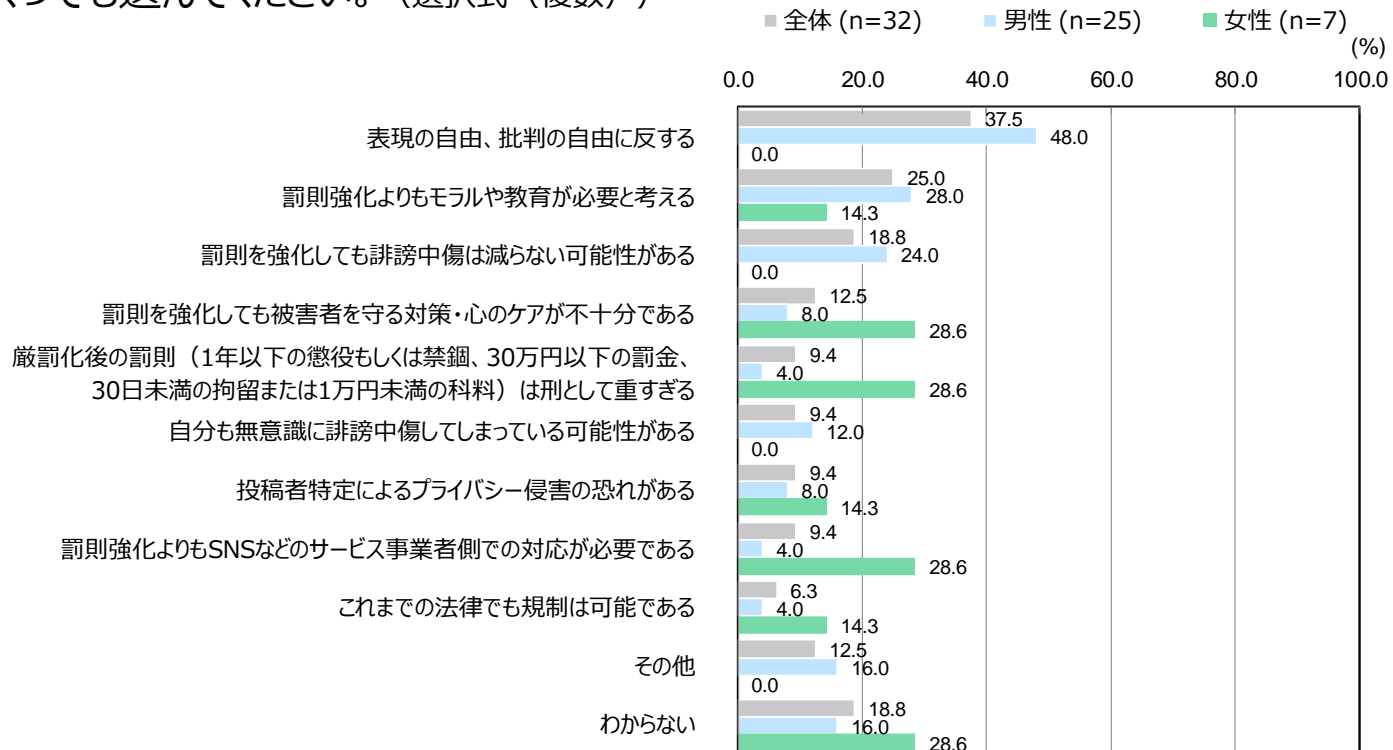
侮辱罪の厳罰化に対する考え

反対理由

侮辱罪の厳罰化への反対理由（※1）として、全体では、「表現の自由、批判の自由に反する」、「厳罰強化よりモラルや教育が必要と考える」、「厳罰を強化しても誹謗中傷は減らない可能性がある」の順に挙げている。

※1 「反対」もしくは「どちらかといえば反対」と回答した理由

質問5：侮辱罪の厳罰化に「反対」もしくは「どちらかといえば反対」とお答えいただいた理由について、次の中からいくつでも選んでください。（選択式（複数））



※2 侮辱罪の厳罰化について「反対」と回答した回答者の割合が低いため、n数が少ない。

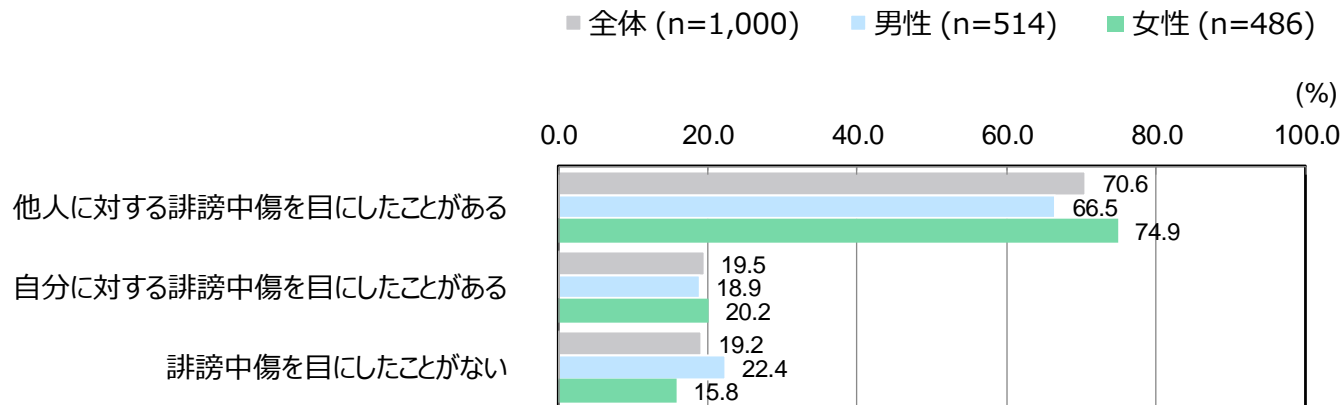
詳細

1. 刑法改正に関する認識
2. 誹謗中傷に関する経験・対策
3. 誹謗中傷に対するペナルティへの考え

誹謗中傷に関する経験

全体では、約7割が「他人に対する誹謗中傷を目にしたことがある」と回答。性別では、女性が男性よりも、「他人に対する誹謗中傷を目にしたことがある」との回答した人の割合が高い。男女とも、約2割が「自分に対する誹謗中傷を目にしたことがある」と回答。

質問6：インターネット上の掲示板やSNSなどにおいて、他人の人格、性格、容姿を否定したりするなど、誹謗中傷にあたると思われる事項が書き込まれているのを目にしたことがありますか。（選択式（複数））

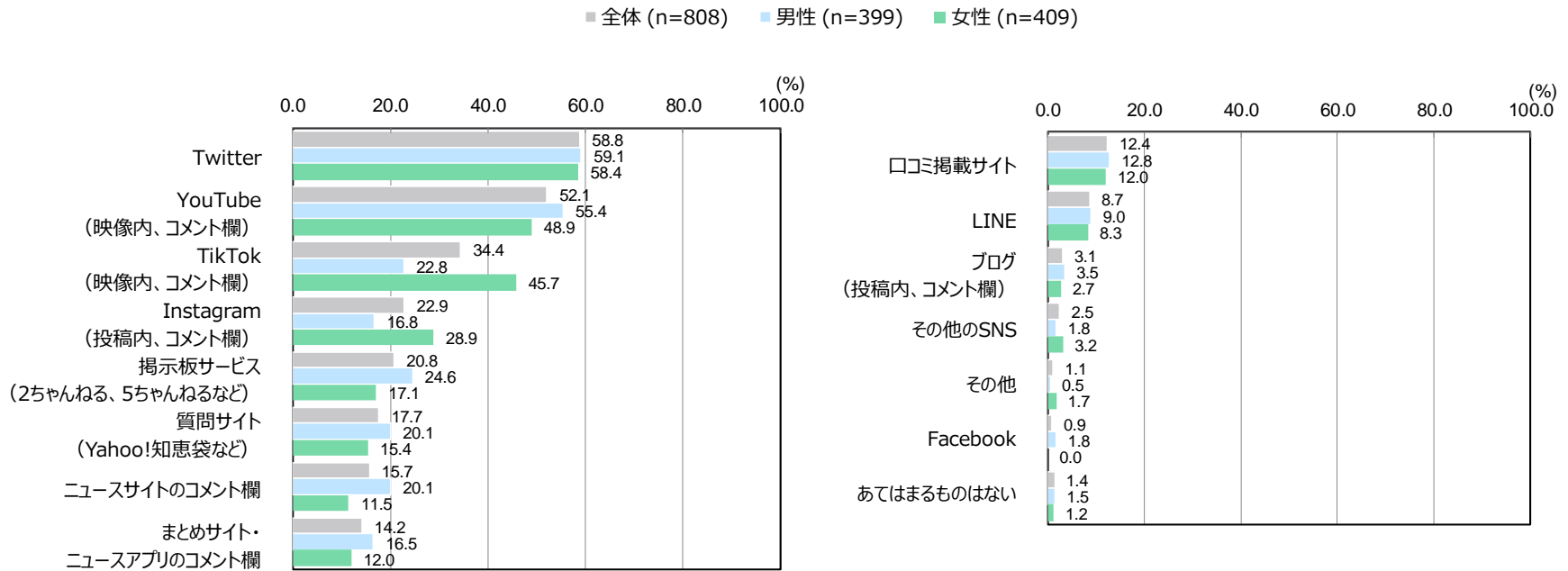


誹謗中傷に関する経験

誹謗中傷を目にした媒体

誹謗中傷を目にした媒体としては、男性では「Twitter」、「YouTube」、「掲示板サービス」の順に回答した人が多く、女性では「Twitter」、「YouTube」、「TikTok」の順に回答した人が多い。

質問7：誹謗中傷を目にしたことがあると回答した人にお聞きします。どのような媒体で誹謗中傷を目にしましたか。次の中からいくつでも選んでください。（選択式（複数））



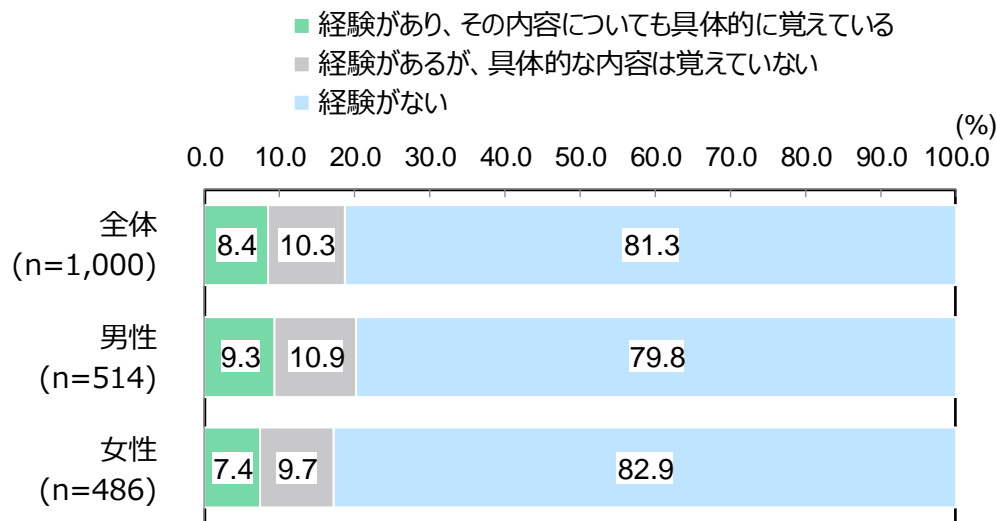
誹謗中傷に関する経験

誹謗中傷を書き込んだ・発信した経験

誹謗中傷を書き込んだ・発信した経験について、「経験がある」(*)と回答した人は全体で約2割。「経験がある」と回答した人の半数以上はその具体的な内容を覚えていない。性別では、男性の方が女性よりも「経験がある」(*)と回答した人の割合が高い傾向。

※「経験があり、その内容についても具体的に覚えている」と「経験があるが、具体的な内容は覚えていない」の合計。

質問8：あなた自身は、誹謗中傷にあたると思われる事項をインターネット上の掲示板やSNSなどにおいて書き込んだり、発信したりした経験はありますか。(選択式(単一))



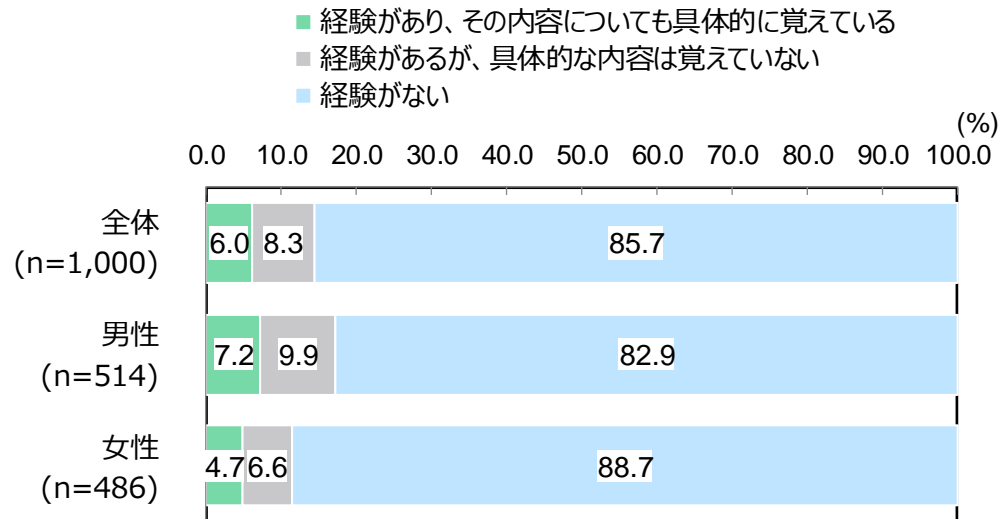
誹謗中傷に関する経験

誹謗中傷をシェア・リツイートした経験

誹謗中傷をシェア・リツイートした経験について、「経験がある」(※)と回答した人は全体で約15%。「経験がある」と回答した人の半数以上はその具体的な内容を覚えていない。性別では、男性の方が女性よりも「経験がある」(※)と回答した人の割合が高い傾向。

※「経験があり、その内容についても具体的に覚えている」と「経験があるが、具体的な内容は覚えていない」の合計。

質問9：あなた自身は、他人が発信した誹謗中傷にあたると思われる書き込みや投稿をインターネット上の掲示板やSNSなどにおいてシェア・リツイートした経験はありますか。(選択式(単一))



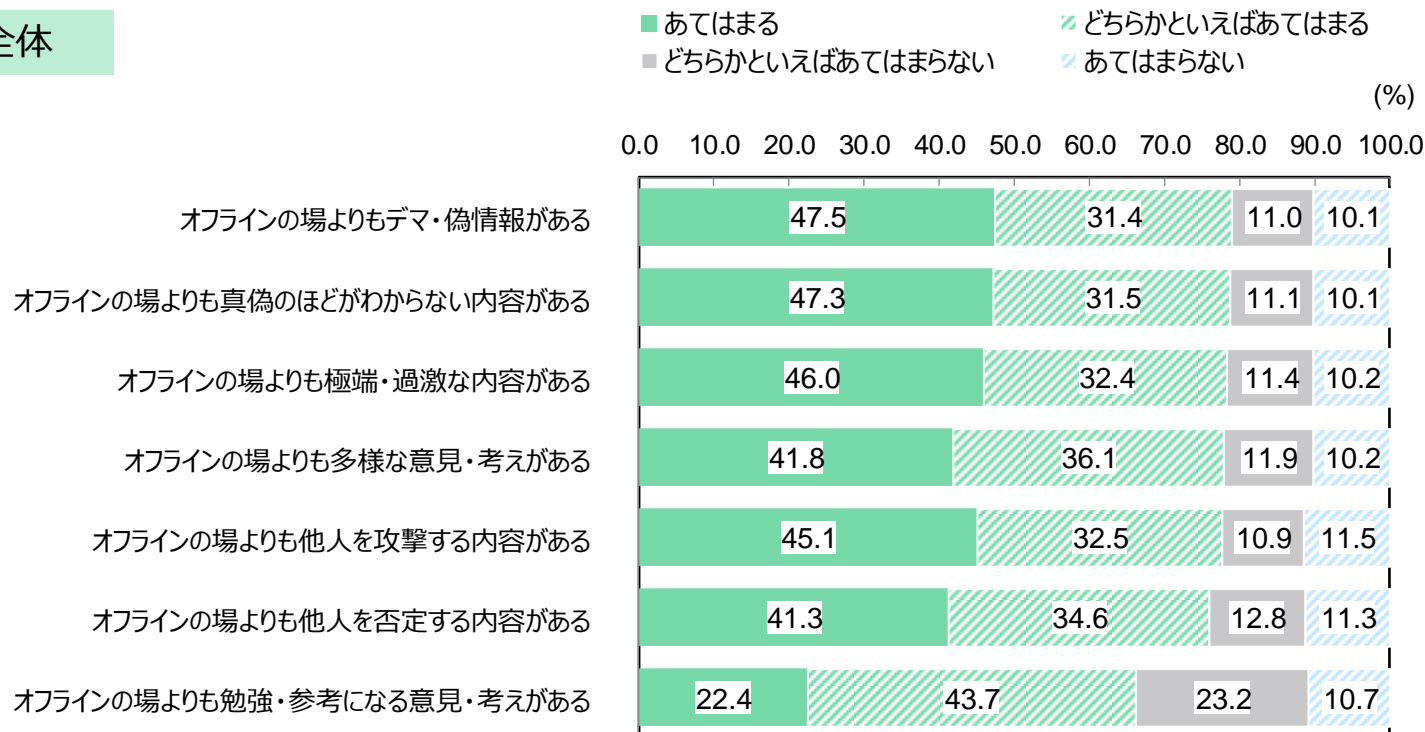
インターネット上での投稿や発言に対する考え

インターネット上での投稿や発言について、全体では、「オフラインの場よりもデマ・偽情報がある」、「オフラインの場よりも真偽のほどがわからない内容がある」、「オフラインの場よりも極端・過激な内容がある」などといった項目について、8割弱が「あてはまる」(*)と回答している。

※「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計。

質問10：インターネット上の掲示板やSNSなどにおける投稿や発言について、オフラインの場での発言と比較すると、どのように感じますか。(選択式(単一)) (n=1,000)

全体



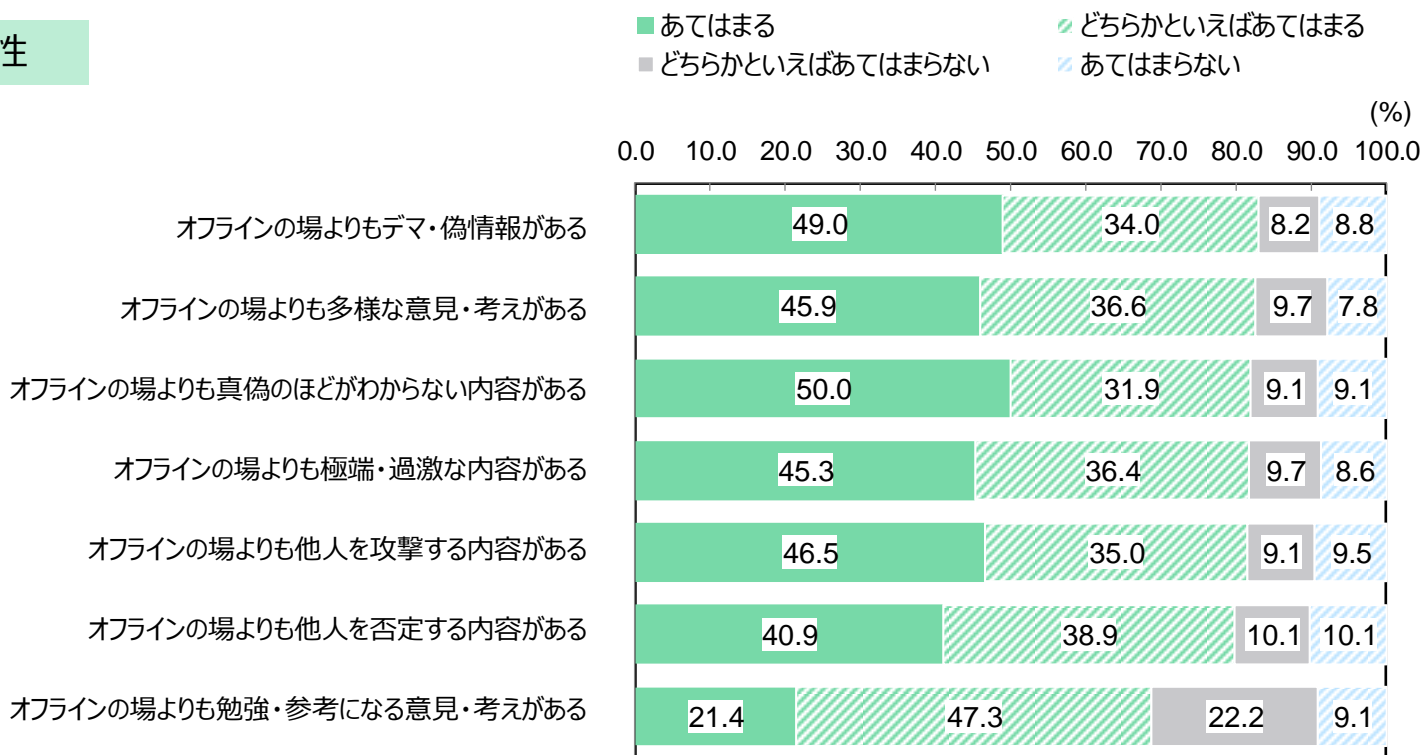
インターネット上での投稿や発言に対する考え

インターネット上での投稿や発言について、女性では、「オフラインの場よりもデマ・偽情報がある」、「オフラインの場よりも多様な意見・考えがある」、「オフラインの場よりも真偽のほどがわからない内容がある」などの項目について、約8割が「あてはまる」(*)と回答している。

※「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計。

質問10：インターネット上の掲示板やSNSなどにおける投稿や発言について、オフラインの場での発言と比較すると、どのように感じますか。(選択式(単一)) (n=486)

女性

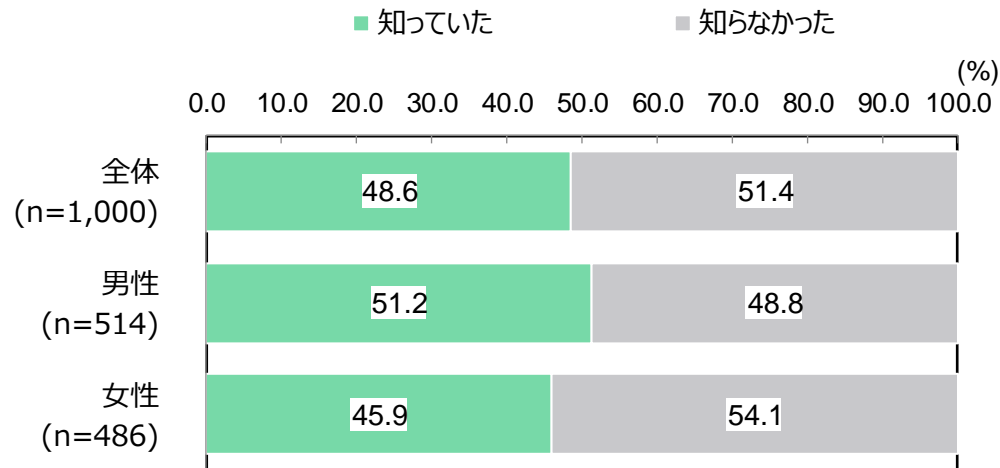


誹謗中傷対策

警察、弁護士等を通じた削除依頼

最寄りの警察、サイバー犯罪相談窓口、弁護士等を通じて誹謗中傷の書き込みや投稿の削除依頼を出せることについて、全体では、約5割が「知っていた」と回答。性別では、男性の方が女性よりも、「知っていた」と回答した人の割合が高い傾向。

質問11：インターネット上の掲示板やSNSなどで悪質な誹謗中傷の書き込みや投稿があった場合は、最寄りの警察、サイバー犯罪相談窓口、弁護士等を通じて削除依頼を出せることを知っていましたか。
(選択式(単一))

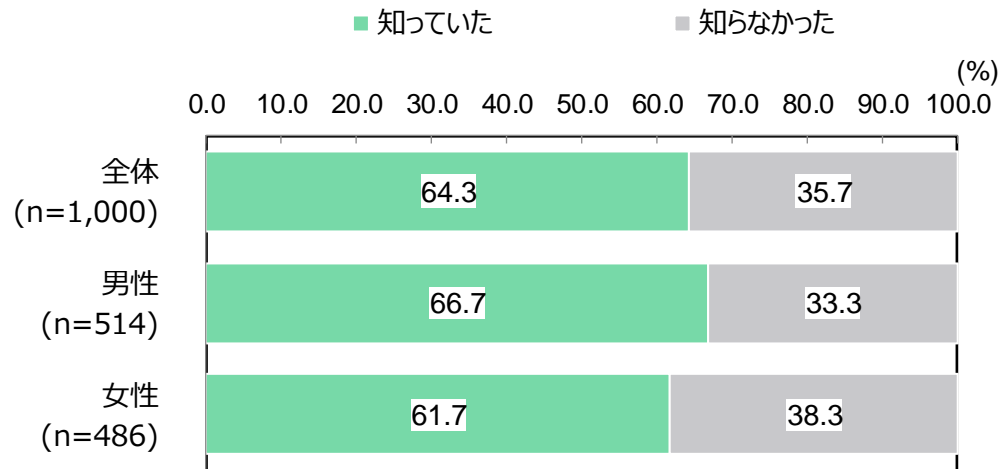


誹謗中傷対策

サービス提供事業者への違反申告・報告

ウェブサイトの管理者やSNS事業者などのサービス提供事業者に対して不適切な投稿に関する違反申告や報告をすることができることについて、全体では、6割以上が「知っていた」と回答。性別では、男性の方が女性よりも、「知っていた」と回答した人の割合が高い傾向。

質問12：インターネット上の掲示板やSNSなどで不適切な投稿を見つけた場合、そのサービス提供事業者（ウェブサイトの管理者やSNS事業者など）に違反申告や報告をすることができることを知っていましたか。（選択式（単一））

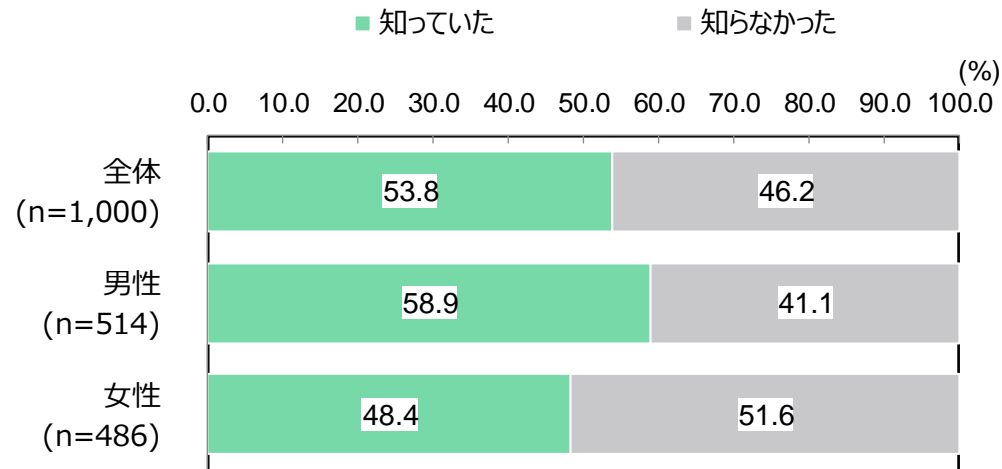


誹謗中傷対策

誹謗中傷の発信者に関する発信者情報開示請求

ウェブサイトの管理者やインターネットプロバイダに対して誹謗中傷の書き込みの発信者を特定するための発信者情報開示請求をできることについて、全体では、5割以上が「知っていた」と回答。性別では、男性の方が女性よりも、「知っていた」と回答した人の割合が高い傾向。

質問13：インターネット上の掲示板やSNSなどであなたに対する誹謗中傷の書き込みや投稿があった場合、その発信者を特定するためにウェブサイトの管理者やインターネットプロバイダに対して発信者情報開示請求できることを知っていましたか。（選択式（単一））

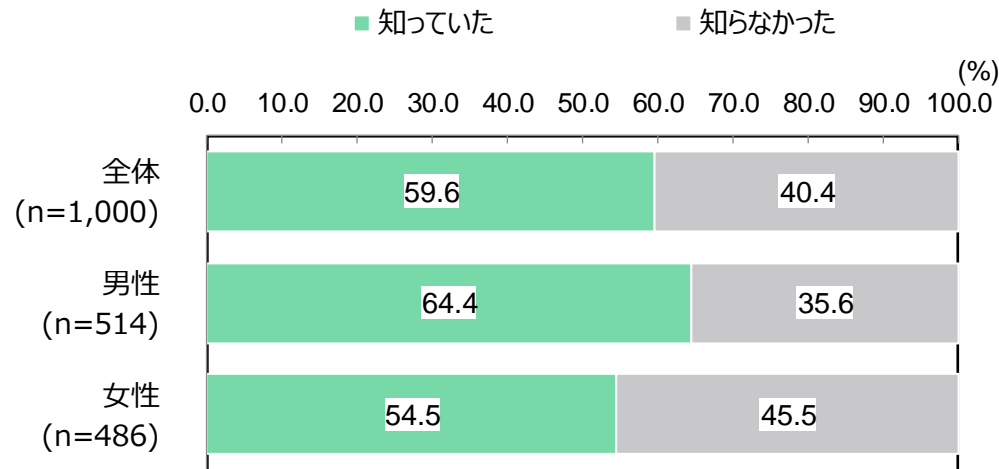


誹謗中傷対策

誹謗中傷の発信者への損害賠償請求

誹謗中傷の発信者に対して損害賠償請求を提起できることについて、全体では、約6割が「知っていた」と回答。性別では、男性の方が女性よりも、「知っていた」と回答した人の割合が高い傾向。

質問14：インターネット上の掲示板やSNSなどであなたに対する誹謗中傷の書き込みや投稿があった場合、その発信者に対して損害賠償請求を提起できることを知っていましたか。（選択式（単一））

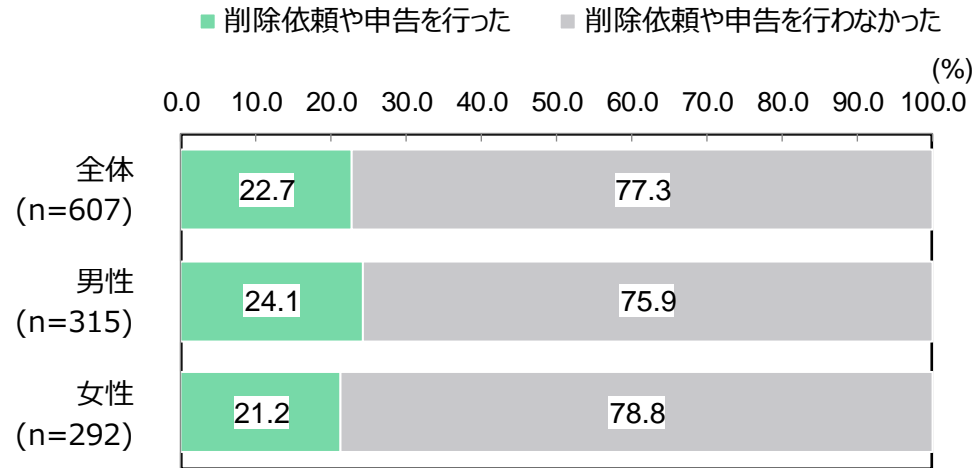


誹謗中傷対策

誹謗中傷を目にした際の行動有無

誹謗中傷を目にした際に、全体では、約2割が削除依頼を出す等の行動を「行った」と回答。性別では、男女とも同程度の割合。

質問15：誹謗中傷にあたる発言をインターネット上で目にしたことがあると回答した方にお聞きします。この発言を目にした際、警察等を通じて削除依頼を出したり、サービス提供事業者に申告したりといった行動をしましたか。（選択式（単一））

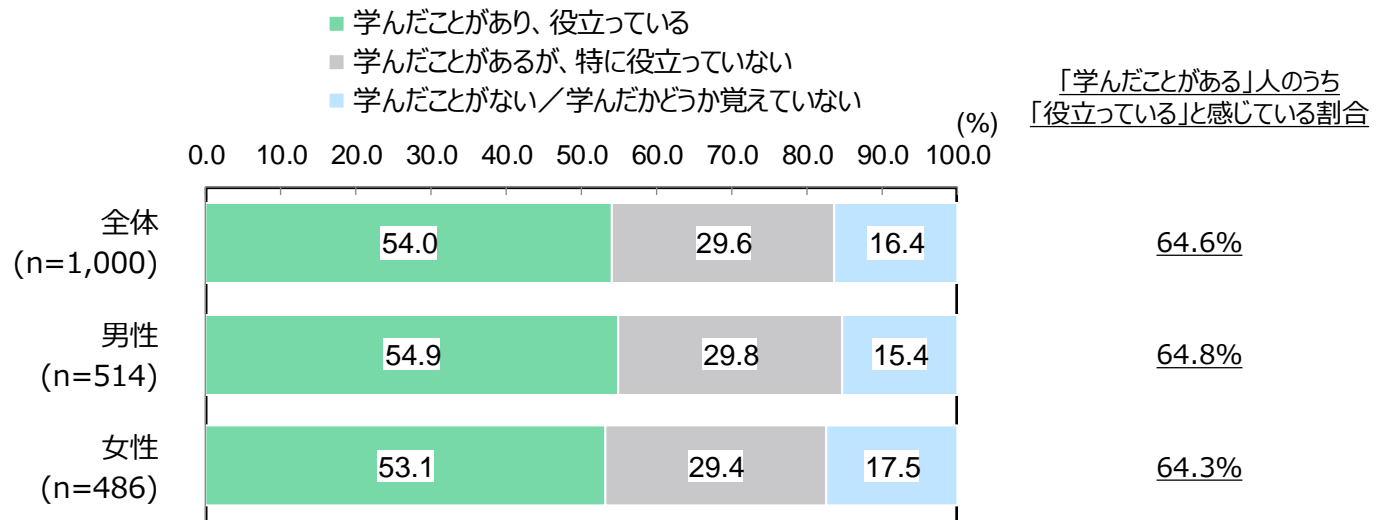


誹謗中傷対策

ネットリテラシーを学んだ経験

ネットリテラシーを学んだ経験について、男女とも8割以上が「学んだことがある」(*)と回答。男女とも、「学んだことがある」(*)と回答した人の6割以上は「役立っている」と感じている。
 ※「学んだことがあり、役立っている」と「学んだことがあるが、特に役立っていない」の合計。

質問16：あなたはネットの使い方や危険性について、学校などで学んだ経験はありますか。（選択式（単一））



詳細

1. 刑法改正に関する認識
2. 誹謗中傷に関する経験・対策
3. 誹謗中傷に対するペナルティへの考え

誹謗中傷に対するペナルティへの考え

全体では、「特にペナルティは必要ない」ものとして、「口コミサイトでの感想」、「中傷へのいいねによる反応」、「中傷のリツイート」の順に多い。「ペナルティが必要」(*)なものとしては、「なりすまし投稿」、「虚偽の投稿」、「デマの発信」の順に多い。

※「特にペナルティは必要ない」以外が選択された割合。

質問17：下記のような行動・発言について、あなたはどの様なペナルティを与えるべきだと考えますか。それぞれについて、いくつでもあてはまるものを選んでください。(選択式(複数)) (n=1,000)

全体

- 刑罰を与えるべき、逮捕するべき (侮辱罪、名誉棄損罪、偽計業務妨害罪など)
- 被害者への賠償金の支払いや謝罪等をさせるべき (名誉棄損など)
- アカウントや書き込みを削除・停止すべき
- 特にペナルティは必要ない

(%)

複数の口コミサイトに、最近食べた洋食店Aの料理が「まずすぎる」という感想を書き込み、5点中1点の評価を付けた。

Instagram上で、有名な漫画家Aによる女性Bを中傷するイラストを見かけ、コメントを付けずにこの投稿を「いいね」した。

Twitter上で、有名な漫画家Aによる女性Bを中傷するイラストを見かけ、コメントを付けずにこの投稿を「リツイート」した。

歯科クリニックAについて「豊富な知識でだまして高額なお金を得る、詐欺行為と言っていると感じています」などといった内容をネット掲示板(2ちゃんねる、Yahoo!知恵袋など)に複数回投稿した。

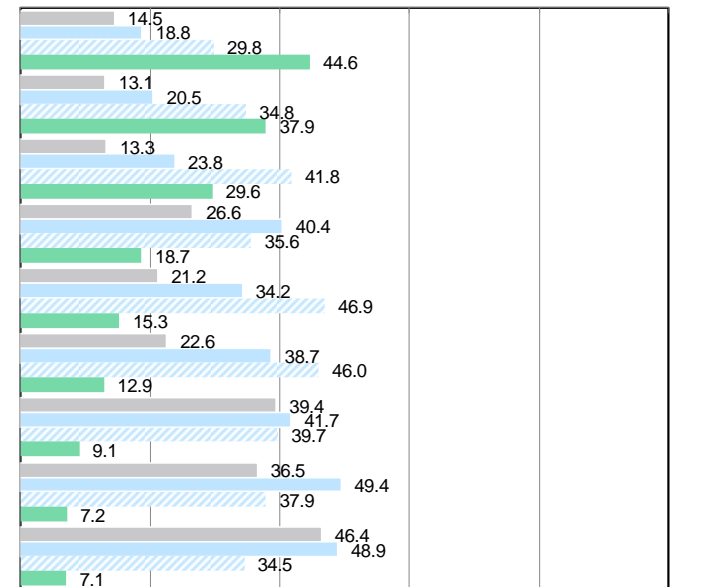
Instagram上に、有名な芸能人が投稿した顔写真について、匿名で「ブス」とコメントした。

Instagram上に、高校のクラスメイトが投稿した顔写真について、匿名で「ブス」とコメントした。

地震が発生した直後に「地震のせいであちの近くの動物園からライオン放たれた」などと言うデマを合成写真とともにツイッターに投稿した。

SNS上に飲食店Aについて「店員の家族がコロナに感染している」と虚偽の内容を投稿した。

インターネットの掲示板でAさんのアカウント名と顔写真を使用して、Aさんになりすまし、第三者を罵倒する投稿を繰り返した。



誹謗中傷に対するペナルティへの考え

男性では、「特にペナルティは必要ない」ものとして、「口コミサイトでの感想」、「中傷へのいいねによる反応」、「中傷のリツイート」の順に多い。「ペナルティが必要」(*)なものとしては、「虚偽の投稿」、「なりすまし投稿」、「デマの発信」の順に多い。「なりすまし投稿」と「デマの発信」については、「刑罰を与えるべき、逮捕すべき」との回答がもっとも多い。

※「特にペナルティは必要ない」以外が選択された割合。

質問17：下記のような行動・発言について、あなたはどの様なペナルティを与えるべきだと考えますか。それぞれについて、いくつでもあてはまるものを選んでください。(選択式(複数)) (n=514)

男性

- 刑罰を与えるべき、逮捕すべき (侮辱罪、名誉棄損罪、偽計業務妨害罪など)
- 被害者への賠償金の支払いや謝罪等をさせるべき (名誉棄損など)
- アカウントや書き込みを削除・停止すべき
- 特にペナルティは必要ない

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0 (%)

複数の口コミサイトに、最近食べた洋食店Aの料理が「まずすぎる」という感想を書き込み、5点中1点の評価を付けた。

Instagram上で、有名な漫画家Aによる女性Bを中傷するイラストを見かけ、コメントを付けずにこの投稿を「いいね」した。

Twitter上で、有名な漫画家Aによる女性Bを中傷するイラストを見かけ、コメントを付けずにこの投稿を「リツイート」した。

Instagram上に、有名な芸能人が投稿した顔写真について、匿名で「ブス」とコメントした。

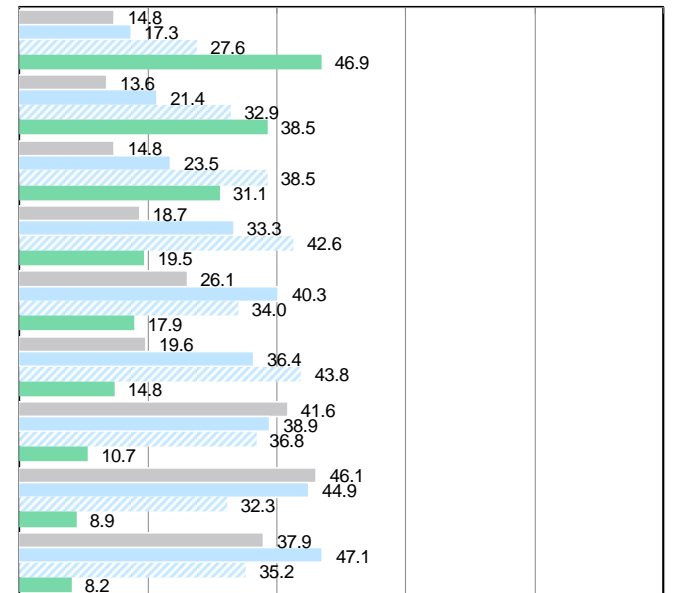
歯科クリニックAについて「豊富な知識でだまして高額なお金を得る、詐欺行為と言っていいと感じています」などといった内容をネット掲示板(2ちゃんねる、Yahoo!知恵袋など)に複数回投稿した。

Instagram上に、高校のクラスメイトが投稿した顔写真について、匿名で「ブス」とコメントした。

地震が発生した直後に「地震のせいでうちの近くの動物園からライオン放たれた」などと言うデマを合成写真とともにツイッターに投稿した。

インターネットの掲示板でAさんのアカウント名と顔写真を使用して、Aさんになりすまし、第三者を罵倒する投稿を繰り返した。

SNS上に飲食店Aについて「店員の家族がコロナに感染している」と虚偽の内容を投稿した。



誹謗中傷に対するペナルティへの考え

女性でも、「特にペナルティは必要ない」ものとして、「口コミサイトでの感想」、「中傷へのいいねによる反応」、「中傷のリツイート」の順に多い。「ペナルティが必要」(*)なものとしては、「デマの発信」、「虚偽の投稿」、「なりすまし投稿」の順に多い。

※「特にペナルティは必要ない」以外が選択された割合。

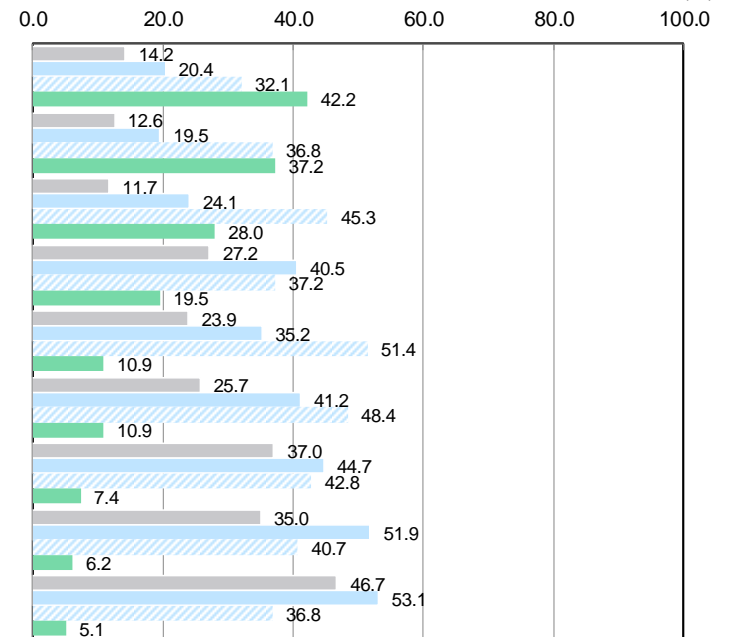
質問17：下記のような行動・発言について、あなたはどの様なペナルティを与えるべきだと考えますか。それぞれについて、いくつかでもあてはまるものを選んでください。(選択式(複数))

(n=486)

女性

- 刑罰を与えるべき、逮捕すべき (侮辱罪、名誉棄損罪、偽計業務妨害罪など)
- 被害者への賠償金の支払いや謝罪等をさせるべき (名誉棄損など)
- アカウントや書き込みを削除・停止すべき
- 特にペナルティは必要ない

(%)



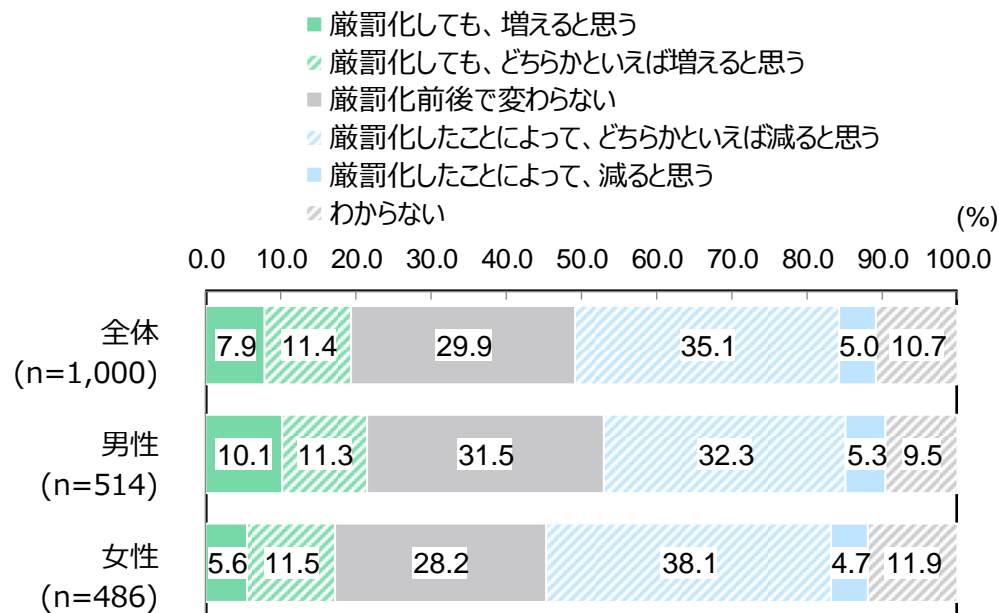
侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

全体では、約4割が侮辱罪が厳罰化したことによって誹謗中傷が「減る」(※1)と回答。一方で、約5割は侮辱罪が厳罰化しても誹謗中傷が「増える」(※2)もしくは「変わらない」と回答。性別では、男性よりも女性の方が「減る」(※1)と回答した人の割合が高く、女性よりも男性の方が「増える」(※2)と回答した人の割合が高い。

※1「厳罰化したことによって、減ると思う」と「厳罰化したことによって、どちらかといえば減ると思う」の合計。

※2「厳罰化しても、増えると思う」と「厳罰化しても、どちらかといえば増えると思う」の合計。

質問18：侮辱罪が厳罰化されたことで、誹謗中傷はどのようになるとお考えですか。(選択式(単一))



侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても増えると思う理由

厳罰化しても誹謗中傷が増えると思う理由としては、人の考えや感情は変わらないから、匿名性のため／バレない・自分は大丈夫と思う人がいるため、というコメントが多い。

質問19：前問で「増えると思う」もしくは「どちらかと言えば、増えると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

増えると思う理由（1/3）

◆ 人の考えや感情は変わらないから

- 人は根本的には変わらないから（複数人が回答）
- 感情は厳罰化しても抑制されるものではない（複数人が回答）
- 人の気持ちがある以上、誹謗中傷は無くならないだろうし、減ることも無いと思う。
- 厳罰化したところで、そういうことをやる人はやる、やらない人はやらないと思う。
- 実際やってる人がいる以上法律変えてもやる人はいると思う
- 誹謗中傷で自ら命を絶っている人が増え続けているのに、まだ裏では悪口を言っている人が沢山いるから、変わらないと思う。
- 人の誰かへの妬みはなくなる
- 厳罰化したとしてもその人が根本的に変わらない限りそのようなことは増えていく一方だと思ったから
- 人間なので、愚かな行為は絶対無くならない。
- いじめが無くならないのと同じ
- 他人を蹴落とし自分を良く見せようとするのは人間の悪意であり人間である限り払拭出来ないものだから
- 誹謗中傷を書き込んだ人は、自分は正しいことを伝えていると思っ込んで入っているから。減らずに増えると思う。
- マナーのない人は一定数はいるから

◆ 匿名性のため／バレない・自分は大丈夫と思う人がいるため

- バレなければ大丈夫と思っている人が多いから（複数人が回答）
- 匿名だからバレないと考えている人は多いと思うから（複数人が回答）
- 匿名だから安心できるところがある（複数人が回答）
- 誹謗中傷しても自分はなんともならないと思ってる人がいるから
- 厳罰化しても特定された例はまだ少ないから
- 厳罰化しても、特定に時間やお金がかかることから特定しない人が多い。そのため、「どうせ特定されないだろう」と思って誹謗中傷する人が多いから。
- 厳罰化しても自分は大丈夫とか開示請求をもっとしやすくなるような環境があまりないからです
- 自分の欲求を満たすためにしていることで、こんくらいなら大丈夫だろうと軽い気持ちだから
- 匿名性により態度が大きくなるのは変わらないから
- 匿名というインターネットの特性は、人の心に安全神話を産み出し刑罰を受けるという現実感を抱けないため。
- 自分は通報されないと思っている人が多いと思うからです。
- ネットでは絶対捕まらないうと考えている人がいるから
- アカウントを消せば良いと思ってるから

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても増えると思う理由

自由に意見が言える／簡単に発信できる環境があるから、誹謗中傷をしている意識がない人がいるから、今後もインターネット利用者が増えるから、さらなる厳罰化が必要だと思うから、というコメントもあった。

質問19：前問で「増えると思う」もしくは「どちらかと言えば、増えると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

増えると思う理由（2/3）

◆自由に意見を言える／簡単に発信できる環境があるから

- SNSなど自由に意見を発信できる場である以上は減らないのではないか（複数人が回答）
- SNSの普及が今後も続くから（複数人が回答）
- その時の感情などをすぐに発信することが出来るから。
- 実際にその場にはいないからなんでも言えるから罰則を厳しくしたところであまり変わらないと思った
- 匿名で誰でも書けるから
- いじめはいつの時代になってもあるように、スマホ社会の今はすぐに人を傷つけるようなことを言うことができるから

◆誹謗中傷をしている意識がない人がいるから

- 誹謗中傷をする人は、自分が誹謗中傷していることに気づいていないから（複数人が回答）
- 誹謗中傷のことを軽く認識している人が多い（複数人が回答）
- 誹謗中傷している人達の全員が自分のやっている大きな罪を意識しない限り減らないと思う
- 具体的に誹謗中傷が悪いかどうか判断出来ない人は気にしない。
- 言論の自由などと言って悪質な書き込みを正当化する人がいると思う

◆今後もインターネット利用者が増えるから

- 今後も利用者が増えるから（複数人が回答）
- もっとユーザーが増えて意見も増えると思うから
- インターネットは普及スピードが想像以上に早いため、簡易的な処置では誹謗中傷を無くすことはまず不可能であると考えられるため。厳罰化してもインターネットに書き込みするかどうかはその人の勝手だし、これからどんどんインターネットが普及していったら誹謗中傷する人が増えると思うから。
- ネットを使ってる人間は世界中で増えておりまた、年齢層も幅広くなっているのだから低年齢層で知識の浅い者が書き込むことも多々あると考えられるため。

◆さらなる厳罰化が必要だと思うから

- これからはもっと情報社会になっているからこのような侮辱罪はもっと厳罰化してもいいと思う
- 弱い処置では意識されないから。
- 刑罰がまだまだ軽すぎる 人間は他人を叩くことで自分が一番だと思いたい生き物だから 批判することが正義だと思っている生き物
- 罪をさらに重くすべきだから

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても増えると思う理由

また、厳罰化が認知されていない／気にしない人がいるから、誹謗中傷をすることでストレス発散する人がいるから、隠れて誹謗中傷する人／法の抜け道を探す人がいるから、厳罰化に反抗する人がいるから、相手の顔が見えないから、といったコメントもあった。

質問19：前問で「増えると思う」もしくは「どちらかと言えば、増えると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

増えると思う理由（3/3）

◆ 厳罰化が認知されていない／気にしない人がいるから

- 厳罰化を知らない人が多いから（複数人が回答）
- 厳罰化しても大半がそれを意識していない（複数人が回答）
- ルールをちゃんと知らない人がいるから
- 罰則を厳罰化してもその人の本心で有れば変わらない。やる人は罰が明確に示されない限りは増えるから。
- 誹謗中傷する人間は法律がどうのこうのなど考えていないと思うから
- 愉快犯には効果がないから

◆ 誹謗中傷をすることでストレス発散する人がいるから

- 今の時代はインターネットを使用する人が増えていて、また、コロナなどでスマホの利用時間が増え、ストレスを溜めやすい人もいることからまだ増えると思う。
- ネットでストレス発散している人が増えていたり、昔に比べネット上で感情的になりやすくなっていると思うので厳罰化しても減ることはないと思ったから
- やっている本人は悪いと思っておらず他のストレス発散方法を見つけさせるべき
- だめと言われたことはやりたくなる ストレスを発散するところがない" やっぱ誹謗中傷をすることで、ストレスを発散したり、人の気持ちかわからない人が沢山いたりなどするから

◆ 隠れて誹謗中傷する人／法の抜け道を探す人がいるから

- 抜け道を探す人がいるから（複数人が回答）
- 別の方法でする、隠れて・見えないようにやる（複数人が回答）
- 特定されないような工夫の開発がより盛んになるから
- 厳罰化しても隠語や縦読みすると悪口になるというような事が起ると思うから。
- 隠語のように悪口とは言い切れない悪口がどんどん生まれていき、対応が間に合わなくなると思うから。
- 様々な言葉が増えて出てくると思うから
- 隠れてする可能性があるし他の人になりすましてする可能性がある

◆ 厳罰化に反抗する人がいるから

- 厳罰化してもそれに反抗心を持つ人が増えるのは必然だから
- 自分をバカにされたような感じで増える可能性がある
- 攻撃すると増えると逆に怒ってしまうと思うから

◆ 相手の顔が見えないから

- 相手の顔が見えないから（複数人が回答）
- 相手のことを考えていない人が多い

◆ 特に理由はない、なんとなく

- 特に理由はない（複数人が回答）
- なんとなくそう思ったから（複数人が回答）

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても変わらないと思う理由

厳罰化しても誹謗中傷の数が変わらないと思う理由としては、厳罰化されたことを知らないから、誹謗中傷をする人は気にしないから、実際に現状変わっていないから、バレない・自分は大丈夫と思う人がいるから、実際に刑罰が下される例が少ないから、とのコメントが多い。

質問19：前問で「変わらない」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

変わらないと思う理由（1/4）

◆ 厳罰化されたことを知らないから

- 厳罰化のことを知らない人が多いから（複数人が回答）
- 刑罰化されたことが世間に浸透していない（複数人が回答）
- 厳罰化したとしても広く通知しなければ抑止力にはならない（複数人が回答）
- 厳罰化されたことも知らず、重罪だと思わずにそのような行動をとってしまう人はいると思うから。

◆ 誹謗中傷をする人は気にしないから

- 誹謗中傷をする人はあまり気にしないから（複数人が回答）
- 誹謗中傷をする人は厳罰化されたとしても人を傷つけると思うから。（複数人が回答）
- 厳罰化後に自分で誹謗中傷コメントを踏みとどまることができる人は、誹謗中傷コメントをすることがないと考えるから。
- まだユーザーの厳罰化に対する考えが甘いから

◆ 実際に現状変わっていないから

- 実際に減ったようには感じないから（複数人が回答）
- 厳罰化後も他人事といった風潮が消えないから。実際に訴えられることはないとかをくっつけている感じがする。
- 情報リテラシーの教育が進む現代でも、いじめや誹謗中傷は過去と比べてもあまり変わっていない。

◆ バレない・自分は大丈夫と思う人がいるから

- 匿名だからバレないと思っている人が多いから（複数人が回答）
- 自分は大丈夫と思っているだろうから。（複数人が回答）
- 今までも罰金等があったのにも関わらず「匿名だから大丈夫だ」と言う安易な考え方をする人が多くいた事から厳罰化したからと言って必ず減るとは言えないから。
- 使っている端末やプロバイダの探知を不可能にするツールなどが現れ始め、匿名性を高めているため
- 本当に訴えられなければ現実味を感じず、誹謗中傷をしても大丈夫だという意識はかんたんには変わらないだろう
- 厳罰化しても、それを知らない人も居るだろうし、「どうせ大丈夫だろう」と、考える人が居ると思う

◆ 実際に刑罰が下される例が少ないから

- 実際に罰された・逮捕された事例が少ないから（複数人が回答）
- 仮に被害に遭ったり、その様な投稿を見かけても、そもそも警察等に相談しづらかったり、相談出来るまでのハードルが高いと感じる以上、厳罰化しても摘発自体が少ないままでは変わらないと思う。
- 厳罰化したところで検挙してくれる可能性は低いから誹謗中傷する人の数は変わらない
- 通報数が変わらなければ意味がない

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても変わらないと思う理由

言論の自由がある／軽い気持ちで発信できるから、誹謗中傷をしている意識がない人がいるから、さらなる厳罰化が必要だと思うから、隠れて誹謗中傷する人／法の抜け道を探す人がいるから、といったコメントも多い。

質問19：前問で「変わらない」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

変わらないと思う理由（2/4）

- **言論の自由がある／軽い気持ちで発信できるから**
- 厳罰化されたという実感が自分にもなく、普段中傷をするような人もそのような実感を感じていないだろうから。というよりも、軽い気持ちで簡単に誹謗中傷ができてしまうというところに問題がある
- 個人個人の問題では無く、ネットなら自由にしてよいという文化に近いような考えが広まってしまっている。文化とは言い過ぎかもしれないが、長年で積み重なった結果はそう変わらないと思う
- 書き込みができる状況がある以上、変わらないと思う。また、それに対して注意や報告することによって巻き込まれたくないという気持ちが皆あると思うので、特に誹謗中傷や、それらへの行動の増減は期待できない。
- そもそも罵倒することも含めてネットだと思って利用しているので、嫌ならネットを利用しなければ良いと思う。ネットで罵倒発見する人は大体こんな考えだと思うから。
- 誹謗中傷をする人はたとえ厳罰化したところで関係なくすると思うからです。いくら厳罰化しても言論の自由がある限り誹謗中傷は減らないと思います。
- 一人一人意見が違う中で言いたい事を言いやすいからこそみんな言いたい事言ってるから無くならないと思う
- まだ誹謗中傷が重たい事だとわからない人が多い気がします
- ◆ **誹謗中傷をしている意識がない人がいるから**
- 誹謗中傷等している人は自分が誹謗中傷しているという実感を持っていない人が多いから。（複数人が回答）
- 実感が湧かないから、侮辱コメントは侮辱とコメント隣に付け このコメントは侮辱コメントだと分かるようにしたら良いと思う。厳罰したところで誹謗中傷などを行っている人には悪気がないから
- 顔が見えないから何を言ってもいいと考える人はどうしても一定数いると思う。それに自分は正しいと思っていれば気にしないと思うから。
- ◆ **さらなる厳罰化が必要だと思うから**
- 罰が軽いため。もっと重いものにしない限り、誹謗中傷は減らない。
- スマホなどで簡単に悪口を書き込めてしまい、重い罪だと思っていない人が多いから。特に50代の人が多いそうですし、厳罰化した所で誹謗中傷は減らないかなと思いました。
- 小さな罰を与えたところではかわらない
- ◆ **隠れて誹謗中傷する人／法の抜け道を探す人がいるから**
- 厳罰化されても、法律の穴をかいくぐるような／ギリギリ罰にならないような発言で誹謗中傷する人がいると思う（複数人が回答）
- たちごっこみたいになりそう
- 厳罰化をしても見えないところでの誹謗中傷は存在し続けるし、より巧妙な誹謗中傷も現れてしまうと思うから。

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化しても変わらないと思う理由

誹謗中傷の数が多すぎるから、罪になる基準が曖昧だから、インターネットやSNSの利用に関する正しい知識がないから、誹謗中傷をすることでストレス発散する人がいるから、子どもによる誹謗中傷があるから、といったコメントもあった。

質問19：前問で「変わらない」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

変わらないと思う理由（3/4）

◆ 誹謗中傷の数が多すぎるから

- 有名人相手の誹謗中傷は伏字なども含めると数え切れないほど存在してしまっていて、誹謗中傷を受けた本人が受け取らないようにコメントすることは正直可能だし、全てを訴えることは不可能に近いと思ったから。
- 最近の日本はアンチが増えすぎているから
- snsなどは、より発展したり、いろんなサイトやアプリが増えるため。
- サブ垢などが作れるから

◆ 罪になる基準が曖昧だから

- どれくらいから罪として扱われるか分からない。
- 大した意味になさないし、意見と誹謗中傷の区別がしにくい時もあるから
- あまり具体的ではないから

◆ インターネットやSNSの利用に関する正しい知識がないから

- ネットリテラシーの啓発が必要だと思うから
- 正しい認識を持っていない人が利用しているので、ネットの世界は自由だと誤解している人が多いです。このような法改正で気づいてくれれば良いのですが、何か事件が起こらないと他人事・・・これが率直な意見です。

◆ 誹謗中傷をすることでストレス発散する人がいるから

- きつと罰が強くなったことなんて知る人が少ないし、誹謗中傷なんてやってる人は自分の快樂のためにやってるから自分はバレないとか思って絶対に減らないと思う
- 誹謗中傷する人間は自分がイライラしているが誰からも相手にされない・もしくはわかってもらえず結局人にあたる人間が殆ど。自分の気分が晴れるならば相手は誰でもいい。国自体を変えないと無くすというのは無理
- 心のもちようが大切だと思うのと、社会の役に立つなどの自己が社会に認められているかが重要だと思うから
- ストレス発散のためにやってる人が多いから
- 罰がないから誹謗中傷をしているのではなく、ただのストレス発散にしていると思うから。また、厳罰化されたことを知る人は少なそう。

◆ 誹謗中傷をすることでストレス発散する人がいるから

- 心無い人は余裕でする問題と、未成年が行うケースを考えるとその子供に対して厳罰を下せないから。

◆ 特に理由はない、なんとなく

- 特に理由はない（複数人が回答）
- なんとなくそう思ったから（複数人が回答）

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化によって減ると思う理由

厳罰化によって誹謗中傷が減ると思う理由としては、罰を受けたくない／怖いから、前科がつく／罰金・損害賠償を支払う可能性があるから、法律違反をしたくないから、といったコメントが多くあった。

質問19：前問で「減ると思う」もしくは「どちらかと言えば、減ると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

減ると思う理由（1/3）

◆ 罰・ペナルティを受けたくない／怖いから

- 罰を受けたくないと思うから。（複数人が回答）
- 捕まりたくないから（複数人が回答）
- 罰せられることを怖がるから（複数人が回答）
- 自分が罰を受けるまでして他人を傷つけないから。（複数人が回答）
- 厳罰化することによって罰せられる可能性が増えるから
- ペナルティが重くなると普通は減ると思うから（複数人が回答）
- たった一つのコメントだけで重い罰を受けるのはみんな嫌だと思うから
- 何もペナルティがないので誹謗中傷は止まらないが、ペナルティを科すことで減ると思ったから。
- 法律で裁かれるようなペナルティのあることはしたくない人はインターネット上での発言を気をつけようとするはずだから。
- オンライン上で匿名で叩いている時点で、小心者だと思うから罰があるならびびって立ち止まれると思います
- 誹謗中傷を書く人は顔が見えないことをいいことに書き込む人が多いので意外と怖がりが多い。罰せられるとなると怖がって書き込む人が減ると思う
- バレないと思ってやっている人が多いから、法律ができることで怖がりやる人が減ると思う

◆ 前科がつく／罰金・損害賠償を支払う可能性があるから

- 前科がついてしまうから。（複数人が回答）
- 罰金があると減ると思うから（複数人が回答）
- 罰金を払いたくないから（複数人が回答）
- 損害賠償を払いたくないから
- 捕まるリスクや罰金が増えれば多少は減ると思う
- 刑罰化することによって罰金1万円等ペナルティは発生するから、すくなくともそれがなかった時に比べるとネットでの誹謗中傷は少なくなると思う。

• 罰金や罰則を与えることで流石に誹謗中傷する人はいなくなるはず

◆ 法律違反をしたくないから

- 明確な法律違反をしてまで誹謗中傷を行う人は少ないと思うから
- 法律を違反してしまうから
- 犯罪を犯したいと考えている人は少ないだろうから
- 誹謗中傷が悪ということが、法律により明確化されるから。
- 厳罰化で法律としてはっきりしたから
- 日本人は法律で罰せられることに良い印象がないから。
- 犯罪を犯すような人は法律が厳しくなることを嫌がるから
- 犯罪がどうかで人の行動は変わると思うから。

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化によって減ると思う理由

投稿前によく考えるようになる／抑止力になるから、誹謗中傷に対する意識が高まるから、事の重大さに気付くから、といったコメントも多くあった。

質問19：前問で「減ると思う」もしくは「どちらかと言えば、減ると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

減ると思う理由（2/3）

◆ 投稿前によく考えるようになる／抑止力になるから

- 投稿する前に踏みとどまれるきっかけになるから（複数人が回答）
- 厳罰化は抑止力に繋がると思うから（複数人が回答）
- 誹謗中傷ではないかと投稿する内容を考えるようになる（複数人が回答）
- 自分の言葉に責任を持つ人が増える（複数人が回答）
- 厳罰化したことが抑止力になり多少は減ると思うが、誹謗中傷をする人は自分は大丈夫だろうという安易な気持ちで誹謗中傷していると思うので、多少は減ったとしても多くは減らないと思う。
- 誹謗中傷した者に刑罰を課すことにより、このことが抑止力に繋がると思ったから。しかしながら、今のSNSで誹謗中傷をたくさんの方がしているのも事実であるから難しいところだ。
- 厳罰化することによって、書き込みや投稿、発信をする前に思いとどまって、考え直すことが出来ると思う。しかし、罰をけないように、数人にしか見えないような所でする人が出始めると思った
- 厳罰化して、実際に処罰を受けた例が出て来れば、自分の発言に対する責任が生まれ、誹謗中傷コメントを投稿したらどうなるか、考えて結果、投稿を控えるようになると思うから。
- 抑制効果があるし、誹謗中傷の問題を周知することが出来る。

◆ 誹謗中傷に対する意識が高まるから

- 厳罰化することで、意識が高まると思うから（複数人が回答）
- 侮辱をすると罪に問われるという意識をより強く持てるから。（複数人が回答）
- 誹謗中傷の悪質性の意識は多少高まると思うから。
- それを知っていることで多くの人はやってはいけないと分かると思うから
- インターネットの使い方を見直すきっかけになると思うから
- 罪に問われるかもしれないという意識は、人の行動に少なくとも影響すると思うから。
- 完全に途絶えることはないと思うが、この事実を知ることによって軽はずみな言葉を使わないようになると思うし、学校などのオフラインの場でもいじめが減る可能性がある。
- 1人1人の意識が高まり、厳罰化することにより、平和な世の中になって欲しいと思った！
- 書き込みに対して責任ある行動を意識させることが可能になる。
- ある程度慎重になる人がある程度増加すると思うから。
- 親がもっと慎重に子どものスマホ利用について考えると思うから。

◆ 事の重大さに気付くから

- 事の重大さが知れるから（複数人が回答）
- 自分のしている罪の大きさがわかるから（複数人が回答）

侮辱罪厳罰化が誹謗中傷の数に及ぼす影響

厳罰化によって減ると思う理由

軽い気持ちで誹謗中傷していた人が減るから、特定される可能性があることを知ったから、罪に関する認知が広まるから、罪に関する認知が広がるから、何もしないより良いから、といったコメントもあった。

質問19：前問で「減ると思う」もしくは「どちらかと言えば、減ると思う」とお答えいただいた理由について、教えてください。（自由記述式、10～100文字）

減ると思う理由（3/3）

◆ 軽い気持ちで誹謗中傷していた人が減るから

- 軽い気持ちで誹謗中傷する人が減る（複数人が回答）
- 刑が加わると軽い気持ちで出来なくなる（複数人が回答）
- 今まで軽い気持ちでやっていやことが厳罰化により犯罪であるという意識をもつようになるから
- これまで、軽い気持ちで誹謗中傷していた人達が、厳罰化したことで、警察から突き止められて逮捕されることを恐れるから
- 誹謗中傷した人は軽い気持ちでしているので、実際に罪に問われると思うと、そのバカバカしさに気づけるから
- 軽い気持ちで誹謗中傷できなくなる。それをよりリスクとして捉えやすくなるから
- 誰でも刑罰などは受けたくないと思うので、遊び半分で行っていた人はやらなくなると思う。
- 今まで「刑が軽かった」「罪に問われない」といった理由で安易に悪質な書き込みを行っていた人が減ると思われるから。
- 厳罰化する前よりはネットでの発言に責任を持つようになると思う

◆ 特定される可能性があることを知ったから

- 匿名だからと誹謗中傷する人が減ると思うから（複数人が回答）
- 誰がやったかがバレることが世間に知れ渡るから。

◆ 罪に関する認知が広まるから

- 誹謗中傷によって刑罰を受ける可能性があることを認識させられたから（複数人が回答）
- 最近芸能人が侮辱罪について言っているのを聞いて、止める人はいらぬのではないか。
- 現代の若者は幼少期からインターネットに触れる機会が多いため、あまりインターネットの危険性を把握していないため、厳重化することで学ぶことができると思う。
- 規制されてもあまり変わらないというのが第一印象だが、厳罰化されると厳罰化が注目されてそれが足止めになって辞める人が増えると思われるから。
- 厳罰化を知る人が増えることで誹謗中傷する人が減ると思うから
- 厳密には厳罰化しただけでは変わらないが、誰かが行動を起こし厳罰化による誹謗中傷を行うことのデメリットが世間に広まれば減ると思う。

◆ 何もしないより良いから

- 何もしないより結果は出ると思うから

◆ 特に理由はない、なんとなく

- 特に理由はない（複数人が回答）
- なんとなくそう思ったから（複数人が回答）

第50回18歳意識調査「インターネット利用と侮辱罪」 示唆



侮辱罪厳罰化の 周知

若者の約8割は侮辱罪の厳罰化について賛成しており、そのうちの約5割が悪質な書き込みの抑止効果に期待している。一方で、約5割は改正刑法が成立したことを知らなかったと回答。侮辱罪の厳罰化によって誹謗中傷の抑制が期待されるものの、厳罰化されたことが広く一般に知られていないと、誹謗中傷の抑止力になり得ないため、周知をしていく必要がある。



誹謗中傷対策 へのハードル

不適切投稿の削除依頼や違反申告・報告などの各種誹謗中傷対策について、若者の半数程度はその存在を知っていた一方で、実際に対策を実行したのはそのうちの2割程度に留まる。警察等に相談するまでのハードルや通報することによってトラブルに巻き込まれることを恐れる声もある。誹謗中傷を受けた際、若者にとってわかりやすい手順やアプローチしやすい窓口を考えていくことが重要。



見えない被害の 可視化

若者の約5割は侮辱罪が厳罰化しても誹謗中傷が「増える」もしくは「変わらない」と回答している。その理由として、厳罰化について知られていない、人の行動・考えを簡単には変えられない、インターネット利用者が今後も増える、といったもののほか、表現や個人を特定されないような工夫をした誹謗中傷が増える恐れが指摘された。各サービス事業者による見えづらい被害を可視化するような工夫が期待される。



教育の重要性

インターネットやSNSの利用が広がっている中で、誹謗中傷の投稿者の年齢層も小学生から高齢者まで幅広い。8割以上の若者がネットリテラシーを「学んだことがある」と回答しており、そのうち6割以上はネットリテラシー教育が「役立っている」と感じている。幅広い年齢層へのネットリテラシー教育が重要となってくると考えられる。